



毎月1回
25日発行

はしもと★ランド

第118号
6月25日

<http://hashimoto-land.com>

はしもとランド

検索

発行・編集・印刷 ■ 橋本新聞販売株式会社 企画部 丸岡・高橋

〒370-0063 高崎市飯玉町42 TEL.027-361-4950 FAX.027-361-5009 e-mail:takahashi@hashimoto-land.com



橋本新聞(株)企画部スタッフ一押しのお勧め店

<p>企画部長&はしもとランド担当 スタッフM 食事処 北大路</p>	<p>マイタウン担当 スタッフA 中華 大棟 (ダイシン)</p>	<p>WEB担当 スタッフH asiana 茶廊 (アジアナサロウ)</p>	<p>制作担当 スタッフT 中国茶屋 TONCHINKAN</p>	<p>企画部長&はしもとランド担当 スタッフM まる弥 RA-MEN</p>
<p>和食の料理人経験の長い大将が選んだ新鮮素材で作るこだわりの和食。20年以上営業していた中居町から高関町へ引っ越してきてから約9年。昼のランチはとんかつ、ヒレかつ、しょうが焼き、てんぷら、魚、うなぎなどの定食が750円から。どれもボリュームたっぷり、サラダや味噌汁、お新香、フルーツ、珈琲がついてとってもリーズナブル。ご飯のおかわりは無料。個室(24~25名まで可能)もあり、色々な集まりや宴会、法事などに利用する人も多いです。正泉寺の南西方向へ約100m、住宅街の中にあります。</p>	<p>親子で経営するアットホームな雰囲気の中華料理「大棟」は、洋食の修行もした店主の息子さんを作る洋食メニューも充実。野菜がたくさん入った焼きギョーザ(350円)は、野菜の甘みとモチモチした皮の食感が大人気。レバニラ(550円)、酢豚(750円)、ニンニクチャーハン(600円)、五目ラーメン(600円)なども人気のメニューです。ボリューム満点で価格もリーズナブルなので、家族や友達で賑やかに分け合う光景がよく見られます。アルコールも揃い、宴会も可能。写真の料理は、焼きギョーザ(350円)、玉子チャーハン(600円)、辛味噌ラーメン(コーンをトッピングして700円)。</p>	<p>静かな住宅街にある「asiana 茶廊 (アジアナサロウ)」は、季節ごとのイタリアン、アジアン、エスニックなどが楽しめるダイニングバーです。パスタ・ごはん・カレーから選べるランチ(980円~)、夜はカクテルやワインなども楽しめます。ランチタイムは混雑することが多いので予約がお勧め。上の写真は、サラダ、カブとカリフラワーのスープ、鶏のポレンタがのった桜海老と玉葱ラゲのクリームスパゲティ、小さなピザ、ガトーフロマージュ、ホットコーヒー。ランチセットで1360円。</p>	<p>胡弓のBGMが流れる店内は、従来の中華料理屋のイメージを払拭するお洒落な空間。シンプルなお洒落な空間。シンプルな食器に、鮮やかに盛りつけられる創作中華は目と舌を同時に楽しませてくれます。特に、透き通ったスープにあっさり味のラーメンが私好み。曜日で変わるランチは数種類あり800円~1000円。ある日のランチは前菜・サラダ・メイン料理(4種類の中からセレクト)・デザートで950円。別に150円で飲み物が付きますが、ハートの形のコーヒーが可愛くて必ず頼んでしまいます。一品料理や点心、デザート、何を食べても美味しいですよ!吉岡町食の駅・ファームドゥから北へ約400m、かわいイ看板が目印です!</p>	<p>新潟県・栃尾出身の気さくなご夫婦が経営しているラーメン店。醤油、塩、とんこつ、みそ、辛みそのラーメンがあり、じっくり仕込んだスープにコシのある麺がよく絡み美味しい。大盛りは100円増し(高校生までは無料)、ラーメンとセットメニューとして、ミニチャーシューマヨ丼とミニビーフカレー丼が各280円。新メニューの特製冷味噌中華750円もお勧めですが、個人的には野菜たっぷり白味噌・赤味噌・酒かすをブレンドした特製味噌のみそラーメン780円がイチオシ!ウエディングレストランジュレの隣、黄色い誘導看板有。</p>
<p>【営業時間】 昼 11:30 ~ 13:30 夜 17:00 ~ 22:00 【定休日】 火曜日 【住所】 高崎市高関町107 【電話】 027-326-6848</p>	<p>【営業時間】 昼 11:00 ~ 14:00 夜 17:00 ~ 21:00 【定休日】 木曜日 【住所】 北群馬郡榛東村新井1136-1 【電話】 0279-54-4362</p>	<p>【営業時間】 ランチ/11:30 ~ 14:00 (L.O.14:00) ディナー/17:30 ~ 24:00 (L.O.23:30) 【定休日】 月曜日、第3火曜日 【住所】 高崎市浜尻町222-6 【電話】 027-364-2836</p>	<p>【営業時間】 ランチ/11:30 ~ 14:30 (平日、土日は15:00迄) ディナー/18:00 ~ 21:30 (平日、土日は17:30~) 【定休日】 火曜日 【住所】 北群馬郡吉岡町大久保1972-1 【電話】 0279-55-0419</p>	<p>【営業時間】 昼 11:30 ~ 14:00 夜 17:30 ~ 20:30 【定休日】 月・火曜日 【住所】 高崎市新保町249 【電話】 027-363-6430</p>



奉職した宮城小学校



詩碑「花なればこそ」

「夕焼け」で始まるこの詩は、晩年に差し掛かった自己の生き様を詠ったのだらうか。「渦まく風」とは不条理に満ちた社会、いやそこで生きねばならない自らの運命か。詩人としての人生を選択した以上、歌詠みとしての高みを目指す苦

うつせみの花を求めつ 今日もまた 暮れゆく川辺をさまよう (花なればこそから抜粋)

夕焼け熱れ わくらば花のごとく燃え 渦まく風に 連れられつ追いつ きびしきあらがい夢と化す

前橋の苗ヶ島(旧宮城村)出身の詩人・東宮七男(かずお)は、萩原朔太郎と親交を持ち、群馬師範(現・群馬大学教育学部)を出ると宮城小、大胡小などに奉職した後には群馬ペンクラブの会長、県文学会副会長を務め、上毛カルタの編集にも携わった県文壇の重鎮である。功績を称え80歳の時、詩碑「花なればこそ」が広瀬川にかかる久留万(くるま)橋近くに建てられた。

冠雪した赤城山を自身に例えているのだらうか。年を重ねると淡然としてくるものだ。それを世間では「枯れた」などと言う。しかし詩人はそれを良しとしない。県を襲い甚大な被害をもたらした台風は、人生に襲う試験を表しているのだらうか。それらを乗り越え、詩人は颯爽と詩の道を行く。何が起きてもびくともせず、悠然と下界を見下ろす赤城山こそ、詩人の求める姿なのである。

上州をゆく (68) ペンネーム 国定忠治(高崎在住) 渦まく風にー 郷土詩人の思い

悩が続く。詩作とは人生の真実に迫る作業だ。人の生の実を採すことは何と苦しいことか。うつせみ(セミの抜け殻)の花を求めようかな難事に違いない。 老衰したと他は嘲うが わたしは 冬の赤城山が好きだ (略) カスリーンやアイオン、 キティを恨まず 頭の白髪や禿げあがりき 気にもとめず 颯爽と とびかっているではないか (冬の赤城山から抜粋)